だっこするよ

令和３年７月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
〒115 - 0053　北区赤羽台１－４－11－105
TEL　3900－0189　FAX　3907－8690
園　長　　奥戸　昌子

コロナ禍の保育の振り返りからのコロナ禍２年目へ

今年も美しい笹を赤羽自然観察公園の古民家さんから頂いて園内に飾ります。皆様の無病息災、健やかな成長を祈りたいです。中国から伝わった七夕には、短冊に歌や願いを書いて、書道の上達を祈ったと言い伝えもあります。美しい天の川が見えるといいですね。

園では、身近な自然とのふれあいを大切にしています。子どもたちを室内でなく、本来の居るべき場所に開放することで五感を働かせて、自然とたっぷりと共鳴、共振して戻ってきます。子どもの隣を歩くとよく観察して歩いているのが分ります。ずっと脳を使って視覚や聴覚、触覚からの情報を処理しているのです。見たことを言葉で解説してくれます。空の様子、草木の匂い、クチナシの花、アスファルトの照り返し、鳥の鳴き声、蟻の行列、虫の死骸、木々の揺らぎ，差し込む光、乾いた土、夏草の蒸した臭い･･･見たり触れたり感じたことを自分の中に持ち帰り、心の中の引き出しを増やしているのでしょう。さて、これからは、熱中症計を確認しながら水遊び、「水」という身近なモノから生まれる不思議さ、面白さ、ワクワクする夏遊びにしたいです。

「コロナ禍の保育」の振り返りをしました。マイナス面だけでなく、新しい発見や見直しが生まれ、良かった点も多く、保育の質をどう高めるか、アフターコロナへ向けて良い点は続けていきたいと思いました。〈良い点〉・感染対策を行なったことで感染症が少なかった・清潔に過ごせた・グループで時間差を付けたことで密にならずに大人も一人ひとりを丁寧に見ることが出来た・食事、午睡の場所を固定して子どもが主体的に行動できた・フリースペース、テラス、玄関、廊下を最大限活用することの良さに気付いた・密にならないようコーナー遊びを充実させたことで子どもが落ち着いて遊べた・運動会、大きくなったねの会をクラス単位にしたため運営もしやすかった・行事が出来る喜びを知った〈改善点〉・衛生管理、消毒の作業が増えた・密を避けるために子どもに制限をしてしまうとき自由に遊ばせてあげたかった・グループ活動で他のグループとの交流が少なくなった・食事のテーブルを増やしたことで保育室が狭くなり、今までのように介助が出来なかった・保護者に保育の様子を見ていただく機会が少なかった・食育が出来なかった･･･回答の一部です。

東京大学遠藤利彦先生のオンライン授業を園内研修として受講しています。遠藤先生は、コロナは保育の原点や基本に立ち返る機会にして欲しいと話され、また、マスクがあっても感情伝達は十分に可能です。顔の上部だけでも表情は豊かに伝わり「目は口ほどにものを言う」人間のみにある白目と黒目、そのコントラスト→視線の動きを伝達し、視点は「何に対して」表情は→「どんな気持ちをもっている」がその人の情動は相手に伝達されます。マスクをしての保育の誤解、コロナ禍での保育は悪い、を前提でマスコミからは話を依頼されるが、マスクをしてもコミュニケーションは取れます。無意識のうちに目から感じとる情報の多さ、子どもは気付いています。眼輪筋はウソがつけないのでよく分ります。不安にならず、アタッチメントを育む保育を行なって欲しいと話されました。とても納得しました。

クラスに入るとそういう瞬間をよく見かけます。ひよこさんも大人の声掛けに嬉しそうに応えています。２年目は、厳重な感染対策から適切な感染対策を行ないつつ、保育所保育指針と共に、自分から育とうとする子どもたちのエネルギーを引き出しながら保育を進めていきたいものです。写真　あれ～水はどこへいくのかな？